

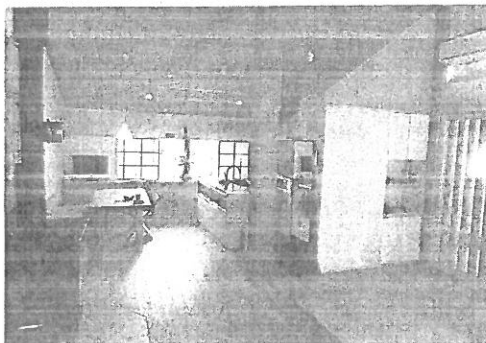
吉本 カラ松A材を積極活用 構造材から家具まで

吉本(長野県南佐久郡、由井正隆社長)は、カラ松の循環林業を推進しており、その一環でA材(信州プレミアムカラ松)の活用に取組んでいる。昨年、由井正隆専務の自宅を新築し、構造材から造作材、家具に至るまで随所にカラ松を活用した。

同社は年間2万立方メートルの素材生産量を上げ、A材が生産される。目詰みの無節が取れる材であり、資源が充実するなか、その発生割合は年々高まっている。のなかで決して多くはすべてを合板用に向け

るのではなく、高齢級材は付加価値の高い化粧材に使用してもらうため取り組みを始めた。由井専務は、言葉で説明するよりも現物を見てもらう方が手取り早いと考え、カラ松を使って自宅を新築した。著名な建築家に設計を依頼し、杉、桧、カラ松、ケヤキなどの国産材をふんだんに活

用した。カラ松は24センチ角の大黒柱をはじめ、現しの柱のすべてに使っている。このほか床柱や玄関ドア、天井、テーブルな



カラ松大黒柱のあるリビング

り、桧等約40立方メートルを使用している。施工はなじみのある同じ町内の工務店に依頼した。当初はカラ松

抵抗感があるようだったという。しかし、完成した住宅を見て、カラ松に対する認識が大きく変わった。住宅雑誌に掲載されるなど、その出来栄に自信を感じており、カラ松を積極的に活用していく意向を示している。

由井専務は「言葉で説明するよりも、現物を見てほしい。家を建ててみて、より一層カラ松の良さが分かった。多くの人に高めた活用を提案していきたい」と話している。

どにも使用しており、あめ色をした独特の風合いが落ち着いた和モダンな空間を演出している。木造平屋建て延べ床面積42坪、丸太換算でカラ松約40立方メートルを使用した。建ててみて、より一層カラ松の良さが分かった。多くの人に高めた活用を提案していきたい」と話している。